



南極観測隊経験者に インタビュー



49次・56次夏

つじもと めぐむ

辻本恵さん

国立極地研究所 生物圏研究グループ特任研究員

(2016年7月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

49次では同行者として参加し、博士論文に必要な、外来種や保全に関するデータなどを取得しました。56次では昭和基地近くのコケや地衣、砂、湖底の植物マットなどにすんでいる、クマムシなどの小さな動物が「どんな種類が、どこに、どのくらいいるか」を調べるためにサンプルをとってきました。南極の露岩域を歩きながら、コケなどをみつけた時にしゃがんで一部採取したりするのですが、とても地味な作業です。



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

夏の昭和基地に初めて降り立ち、すぐにトラックの荷台に乗せられ基地主要部まで運ばれたときには、どこかの土木作業現場に送りこまれたのかな、と思いました。ただ、しらせから昭和基地に向かうヘリコプターから見た、どこまでも続く真っ白な海氷上では、透き通るブルーで様々な模様つくが創られていて、自然の壮大さを感じました。



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

わたしにとって一番印象に残っていて、大好きなのは、南極の澄み渡る青い空です。樹木や高い山などが無い南極では、晴れると見渡す限りに青い空が広がります。南極では、普段の日本の生活ではあまり感じる事が無い、「地球という大きな生命体の中で生かされている」ということを実感することができます。

一番楽しかったことは、隊員さんたちとワイワイ食べるご飯です。野外活動をしたあとに小屋でチームで食べるご飯、野外観測から戻って昭和基地でたくさんの隊員さんたちと食べるご飯、しらせ船内で色々な隊員さんたちと食べるご飯は、とても楽しかったです。



56次夏隊の野外観測を終えてチームで食べた最後の夕食！
(2015年2月3日ラングホフデ雪鳥小屋)